

伊藤幹治教授 経歴・著作目録

経歴

学歴

一九五三年三月二〇日 国学院大学文学部文学科卒業

一九五三年五月 一日 国学院大学大学院文学研究科修士課程入学

一九五五年三月一五日 同上 修了

一九七五年五月二八日 文学博士(国学院大学)

職歴

一九五四年七月一六日 東京都立明正高等学校教諭

一九五六年三月三十一日 同上 退職

一九五六年四月 一日 国学院大学日本文化研究所研究員

一九五九年一〇月一日 琉球国際短期大学助教授（一九六〇年九月三〇日まで）

一九六六年九月 一日 アメリカ、ハーバード大学・エンチン研究所 Coordinate Researcher および

Visiting Scholar（一九六八年六月三〇日まで）

一九六九年三月三十一日 国学院大学日本文化研究所研究員退職

一九六九年四月 一日 国学院大学文学部助教授

一九六九年九月 一日 国学院大学日本文化研究所副主事併任（一九七〇年三月三十一日まで）

一九七〇年四月 一日 国学院大学日本文化研究所主事併任（一九七四年三月三十一日まで）

一九七四年三月三十一日 国学院大学文学部助教授退職

一九七四年四月 一日 国文学研究資料館教授（国立民族学博物館創設準備室）

一九七四年六月 七日 国立民族学博物館教授に配置換する

一九七五年九月 一日 アメリカ、カリフォルニア大学（バークレイ）、日本・朝鮮研究センターの

Search Associate（一九七五年二月二〇日まで）

一九七七年四月 一日 国立民族学博物館第三研究部長併任（一九八八年三月三十一日まで）

一九八八年三月三十一日 国立民族学博物館教授退職

一九八八年四月 一日 国立民族学博物館名誉教授

成城大学文芸学部教授

一九八八年六月 一日 成城大学民俗学研究所所員併任（二〇〇〇年三月三十一日まで）

一九八九年四月 一日 成城大学民俗学研究所運営委員会委員併任（二〇〇〇年三月三十一日まで）

一九九一年六月二七日 成城大学民俗学研究所所長併任（二〇〇〇年三月三十一日まで）

二〇〇〇年三月三十一日 成城大学文芸学部教授退職

非常勤講師（一九六二年～一九九二年）

青山学院大学文学部、大阪大学文学部・同大学院文学研究科、九州大学大学院教育学研究科、

国学院大学文学部・同大学院文学研究科、国際基督教大学、駒沢大学文学部、島根大学文理学部、

専修大学文学部、東京大学教養学部、東京都立大学人文学部・同大学院社会科学部研究科

学会活動

一九六八年四月 一日 日本民族学会評議員（一九七〇年三月三十一日まで）

一九七〇年四月 一日 日本民族学会理事（一九七二年三月三十一日まで）

一九七二年一〇月一日 日本民俗学会評議員（一九八〇年九月三〇日まで）

- 一九七五年一〇月一日 日本宗教学会評議員（一九七七年九月三〇日まで）
- 一九七七年一〇月一日 日本宗教学会理事（二〇〇〇年三月三十一日まで）
- 一九八三年一〇月一日 日本民俗学会評議員（一九八五年九月三〇日まで）
- 一九八四年四月一日 日本民族学会理事（一九八六年三月三十一日まで）
- 一九八八年四月一日 日本民族学会監事（一九九〇年三月三十一日まで）
- 一九八九年一〇月一日 日本民俗学会理事（一九九二年九月三〇日まで）
- 一九九〇年四月一日 日本民族学会理事（一九九二年三月三十一日まで）
- 一九九二年四月一日 日本民族学会監事（一九九四年三月三十一日まで）

社会活動

- 一九七四年九月一五日 国立民族学博物館運営協議員（一九八八年三月三十一日まで）
- 一九七九年六月二八日 大阪市文化財協会評議員（一九八八年六月二七日まで）
- 一九八五年四月一日 国際日本文化研究センター（仮称）創設準備調査委員会委員（一九八六年三月三十一日まで）
- 一九八六年七月七日 総合研究大学院創設準備調査委員会専門委員会委員（一九八七年三月三十一日まで）

で

著作目録

一 著 書

1 著 書

- 一九八七年六月 一日 日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員（一九八九年五月三二日まで）
- 一九八七年六月一〇日 総合研究大学院創設準備委員会教育研究組織等専門委員会委員（一九八八年九月三〇日まで）
- 一九八八年九月一五日 国立民族学博物館運営協議員（一九九四年九月一四日まで）
- 一九九四年九月一五日 国立民族学博物館評議員（在任中）
- その他
- 一九六四年五月一六日 第一回洪沢（敬三）賞（日本民族学協会）
- 一九七四 『稲作儀礼の研究―日琉同祖論の再検討』 而立書房。
- 一九七五 『柳田国男―学問と視点』 潮出版。
- 一九八〇 『沖縄の宗教人類学』 弘文堂。

一九八二 『家族国家観の人類学』 ミネルヴァ書房。

一九八四 『宴と日本文化——比較民俗学的アプローチ』 中央公論社。

一九八八 『宗教と社会構造』 弘文堂。

一九九五 『贈与交換の人類学』 筑摩書房。

2 共 著

一九七五 『宴』（渡辺欣雄と共著） 弘文堂。

一九七八 『内藤湖南と宇野圓空』（日本民俗文化大系第一卷）（森鹿三と共著） 講談社。

3 編 著

一九七二 『柳田国男』 至文堂。

一九七三 『シンポジウム柳田国男』（神島二郎と共編） 日本放送出版協会。

一九七六 『柳田国男の世界』（米山俊直と共編） 日本放送出版協会。

一九八〇 『講座日本の古代信仰』 第三卷（呪ないと祭り） 学生社。

一九八四 『日本人の贈答』（栗田靖之と共編） ミネルヴァ書房。

一九八六 『奄美・沖縄の宗教的世界』（国立民族学博物館研究報告別冊・第三号） 国立民族学博物館。

一九八八 『文化人類学へのアプローチ』（米山俊直と共編） ミネルヴァ書房。

一九九八 『柳田國男とヨーロッパの民族学・民俗学』（民俗学研究所紀要別冊・二三集）成城大

学民俗学研究所。

二 主要論文

↓ 再録した著書を示す。

一九五四 「習俗とその機能―サムナーのフォークウェイズについて」『神道宗教』七、五六

―六五頁。

一九五八 「奄美の神祭り―加計呂麻島ノロ神事調査報告」『日本文化研究所紀要』三、五三

―一三九頁。↓一九八〇

一九五九 「古代の葬制と他界観の構造―階層規制による一分析」『国学院雑誌』六〇（七）、

四、三二頁。

一九六一 a 「宝島の社会と宗教の構造的理解」『日本文化研究所紀要』八、五八―九五頁。↓

一九八八

一九六一 b 「異人歓待説話成立の基盤」『日本文学論究』一九、七七―八四頁。

一九六二 「八重島群島における兄弟姉妹を中心とした親族関係」『民族学研究』二七（二）、

七―一二頁。↓一九八〇

- 一九六四 a 「南西諸島における来世観の複合構造序説」『国学院雑誌』六五(二・三)、六五
七八頁。↓一九八〇
- 一九六四 b 「親方子方制村落における民間信仰の構成分析」『宗教研究』三七(三)、三一〇-
三三三頁。↓一九八八
- 一九六五 a 「都市化と『むら』の生活構造序説」『日本文化研究所紀要』一六、一八一-一二
〇頁。↓一九八八
- 一九六五 b 「黒島の社会と宗教の構造と変化—大里事例の予備的分析」『日本文化研究所紀要』
一七、七八-一〇八頁。↓一九八八
- 一九六五 c 「八重山・西表島の親族関係と祭団の構造と変化」『東京都立大学南西諸島研究委
員会編『沖縄の宗教と社会』平凡社、二三七-二七一頁。↓一九八〇
- 一九六六 a 「農業と日本神話」『歴史教育』四月号、一六-二三頁(再録、伊藤清司・大林太良編『日
本神話研究』三、学生社、一九七七、七五-八一頁)。
- 1966 b Rice Rites in Japan Proper and the Ryukyus: A Comparative Study. *Monumenta*
Nipponica 25: 37-55.
- 一九六九 a 「信仰習俗」九学会連合下北調査委員会編『下北—自然・文化・社会』平凡社、
一二五-一二五頁。↓一九八八

- 一九七〇 「氏子の社会人類学序説(上)」『日本文化研究所紀要』二五、一一二九頁。↓一九八八
- 一九七一 「都市化と地域社会の宗教生活」『人類科学』二三、一五二九頁。
- 一九七三a 「神話・儀礼の諸相からみた世界観」日本民族学会編『沖縄の民族学的研究』民族学振興会、二〇七二七頁。↓一九八〇
- 一九七三b 「日本文化の構造的な理解をめざして」『季刊人類学』四(二)、三二二頁。
- 1974 a Change and Stability in the Folk Religion of the Okinawan Religion. *East Asian Cultural Studies* 13 (1-4): 51-57. ↓一九八〇(翻訳)
- 一九七四b 「祭団の構造と論理—沖縄民俗社会論(一)」『日本文化研究所紀要』三三、一五五一八二頁。↓一九八〇
- 一九七四c 「柳田国男の学問」『柳田国男』(日本の名著五〇)中央公論社、七三三頁。↓一九七五
- 一九七四d 「祖先崇拜と『家』」『講座家族』第八卷(家族観の系譜)弘文堂、一二二七頁。(再録、赤田光男編『祖霊信仰』雄山閣、一九九一、三七一三八五頁)。
- 一九七四e 「折口信夫の沖縄論」谷川健一編『人と思ひ・折口信夫』三三書房、八一五頁。↓一九七五

- 一九七六 a 「村落の論理」 九学会連合沖縄調査委員会編『沖縄—自然・文化・社会』弘文堂、一八一—一八九頁。↓一九八〇
- 一九七六 b 「信仰生活」『講座比較文化』第四卷（日本人の生活）研究社、二二二—二三八頁。
- 一九七七 a 「日本神話と琉球神話」『講座日本の神話』一〇（日本神話と琉球）有精堂、一一—五頁。↓一九八〇
- 一九七七 b 「慶良間群島の祭団連合—沖縄の民俗宗教ノート（二）」『国立民族学博物館研究報告』二（二）、三三六—三五〇頁。↓一九八〇
- 一九七七 c 「古宇利島の聖地と折目—沖縄の民俗宗教ノート（二）」『国立民族学博物館研究報告』二（四）、七九〇—八〇五頁。↓一九八〇
- 一九七八 a 「制度としての宗教」井門富二夫編『講座宗教学』3（秩序への挑戦）東京大学出版会、一〇七—一五七頁。↓一九八八
- 一九七八 b 「比較民俗学再考」米山俊直他編『民衆の生活と文化』未来社、二七—三七頁。
- 一九七九 a 「沖縄本島北部農村の『門中』とその論理—沖縄の民俗宗教ノート（三）」『国立民族学博物館研究報告』四（二）、一一七—一二九頁。↓一九八〇
- 一九七九 b 「田の神」松前健編『講座日本の古代信仰』第二卷（神々の誕生）学生社、一六一—一八一頁。

- 一九八〇 a 「他界観念」 上田正昭編『講座日本の古代信仰』第一卷（神々の思想）学生社、一〇二二二頁。
- 一九八〇 b 「柳田国男の家族学説」『家族史研究』一、一五〇—一六九頁。
- 一九八一 「中之島の祭祀とその社会的文脈」小口偉一教授古稀記念会編『宗教と社会』春秋社、一二九—一三三頁。↓一九八八
- 一九八三 「宮座のシンボリズム」安津素彦博士古稀祝賀会編『神道思想史研究』安津素彦博士古稀祝賀会、七四三—七六二頁。↓一九八八
- 一九八六 「東北農村におけるキリスト教の受容」『国立民族学博物館研究報告』一一（二）、四三—五五頁。↓一九八八
- 一九八八 「稲作儀礼にみられる神観念」『日本文化研究所研究報告』（シンポジウム「日本文化と東アジア」一九八五—一九八六）、東北大学日本文化研究施設、七三七—七九頁。
- 一九九〇 a 「非日常的世界再考」『民俗学研究所紀要』一四、一九—八六頁。↓一九九五
- 一九九〇 b 「民族学と民俗学」『日本民俗文化研究大系』第一〇卷（国学と民俗学）国学院大学、一六七—一八二頁。
- 一九九〇 c 「瑞穂の国再考」『成城文芸』一三二、五二—六七頁。
- 一九九一 「神観念の展開」下出積与・圭室文雄編『講座神道』第一卷（神々の誕生と展開）

桜楓社、一四・三二頁。

一九九四 a 「贈与交換理論の検討」『民俗学研究所紀要』一八、四九・一一四頁。↓一九九五

一九九四 b 「日本社会におけるアニミズム的汎神論の世界」『日本常民文化紀要』一七、一七

三・二〇二頁。↓一九九五

一九九五 「贈与交換における均衡観念」『日本常民文化紀要』一八、一一七・一四三。↓一

九九五

一九九六 a 「民俗文化論再考」『日本常民文化紀要』一九、七七・一一二頁。

一九九六 b 「贈与と交換の今日的課題」『岩波講座現代社会学』第一七卷（贈与と市場の社会学）

岩波書店、一・三二頁。

1998 Evolution of the Concept of Kami. Norman Heavens, trans. In Inoue Nobutata

(ed.), *Kami: Contemporary Papers on Japanese Religion* ④, Tokyo: Institute for Japanese Culture and Classics, Kokugakuin University, pp. 20-41.